

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成21年8月31日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|---------------------------------|--------------|------------|
| 事業所番号 | 2870200850 | | |
| 法人名 | 株式会社神戸介護ケアウイング | | |
| 事業所名 | グループホームケアウイング六甲 | | |
| 所在地 | (〒 657-0031) 兵庫県神戸市灘区大和町4丁目5-25 | | |
| | 電話 | 078-821-4865 | |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所 | | |
| 所在地 | 兵庫県神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年7月3日 | 評価確定日 | 平成21年8月31日 |

【情報提供票より】 [平成21年6月23日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-------------------|-----------------|-----------|
| 開設年月日 | 平成16年1月1日 | | |
| ユニット数 | 2ユニット (利用定員…計18人) | | |
| 職員数 | 19人 | (常勤9人) (非常勤10人) | / 常勤換算14人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|-------------------|--|--|
| 建物構造 | 鉄骨造り | | |
| | 地上3階建て建物の 2階～3階部分 | | |

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|----------------------|--------------------|----------------------|---------|------|
| 家賃(平均月額) | 78,000円 | その他の経費(月額) | 30,500円 | |
| 敷金の有・無 | 有り (円) ・ 無し | | | |
| 保証金の有・無 (入居一時金含む) | 有り (400,000円) ・ 無し | (保証金有りの場合) 保証金償却の有・無 | 有り ・ 無し | |
| 食材料費 | 朝食 | 200円 | 昼食 | 450円 |
| | 夕食 | 550円 | おやつ | 100円 |
| | または、1日あたり | | | 円 |

(4) 利用者の概要 (平成21年6月23日 現在)

| | | | |
|-------|---------------------------|------------------|----|
| 利用者人数 | 計18名 | … (男性2名) (女性16名) | |
| 要介護1 | 5名 | 要介護2 | 7名 |
| 要介護3 | 5名 | 要介護4 | 1名 |
| 要介護5 | 0名 | 要支援2 | 0名 |
| 年齢 | 平均86.9歳 … (最低77歳) (最高97歳) | | |

(5) 協力医療機関

| | | | |
|---------|------|-----|------|
| 協力医療機関名 | 都診療所 | 西病院 | 矢野歯科 |
|---------|------|-----|------|

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR「六甲道」駅徒歩5分の街中にあり、家族訪問もしやすい。1階のフロアは月2回の“朝喫茶”の実施(マスターは、自治会副会長)や地域住民の会合の場として活用され、屋上の菜園も近隣の幼稚園児を招待し芋ほりを体験してもらうなど、「地域に開かれたホーム」としての取組みも定着してきた。ホームのイベントには地域の方々が参加し、また、地域行事には利用者が参加したりと、双方向の交流も深まっている。ホームで飼うセラピードッグは、ホーム内では利用者の心を癒し、また、散歩時には地域住民とのコミュニケーションの糸口になっている。『食』を大切に、利用者には「食べる楽しみ」を継続して頂けるよう、毎日、歯科衛生士(常勤)の指導による口腔ケアを行っていることも大きな特長。 ◎参考として、前回・前々回(H20、H19)評価時の資料写真も添付

【重点項目への取組状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ①職員が地域包括支援センター主催の「リフレッシュ教室」の講師を務めるなど、認知症ケアの地域拠点としての活動を継続している。また、介護セミナーでは、口腔ケアの講習を実施し、地域への知識還元に取り組んでいる。②ホーム通信を年4回送付している。③重度化した場合の指針については検討中。 |
| | 今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:第三者4) フロア会議を開き、全職員で取組み、各階リーダーと管理者がまとめた。 |
| 重点項目② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 運営推進会議は、地域住民、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者代表、家族代表、他事業所職員、法人内地域広報担当者が参加のもと、2ヶ月に1回開催している。会議では、ホームの近況報告のほか、地域行事の情報収集を行ない、評価結果を報告し、改善に向け相談している。議事録を作成し、ホームの玄関に置いている。また、「家族の会」の会長も家族へ向けての議事録を作成し、送付している。 |
| | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 利用者各々の担当職員が中心となり、家族と信頼関係を築くことで、気軽に意見や要望を表出してもらえるようにしている。担当職員は、家族との「対話」を大切に、家族の訪問時に日々の暮らしぶりを報告するほか、家族との連絡ノートも活用している。家族からの意見は、定例会議やフロア会議で話し合い、サービスの向上に活かしている。家族の意見をきっかけに、家族の主催による会＝「家族の会」も発足し、協働の取組みができるようになった。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 地域交流・貢献に努めている。地域バザーでの地元の方々と交流もその一例(地域からホームへ「利用者の育てた野菜をバザーに出展してほしい。」との依頼に、利用者からも「セラピードッグの餌代を稼ぎたい。」との声があがったことから、利用者自らが売り子になり協働して取り組んだ)。ホームと地域住民との連携により、一人暮らしの高齢者の方へ緊急対応をし、事なきを得たこともある。 |

◎社会的生活の支援

日課の、ホーム前の公道の清掃



◎その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

利用者各々に食器収納の引き出しを…



◎食事を楽しむことのできる支援

屋上菜園
協働(食事後の後片付け)



◎役割、楽しみごと、気晴らしの支援

セラピードッグとの触れ合いも…
(事業主体の「神戸介護ケアウイング」はセラピードッグの支援活動にも参画)



◎居心地のよい共用空間づくり

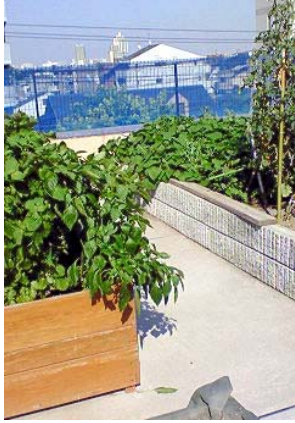
リビングもフロアごとに工夫



◎地域とのつきあい

幼稚園児からプレゼントの絵を飾り…





▲ 屋上



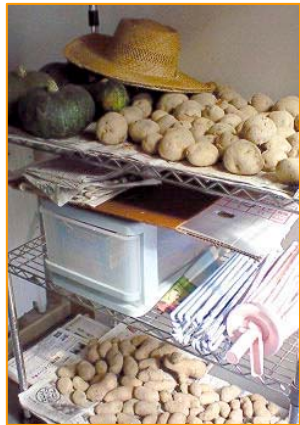
▲ 見守りの工夫（暖簾に鈴を付ける）



▲ 歯科診察台も設置



▲ 風呂



▲ 菜園の収穫物とその料理（職員との協働）



▲ 地域交流・親しみの工夫（外部の方にも分かりやすい表示）

2. 第三者評価結果票

| 外部評価 | 自己評価 | 評価項目 | 評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容) | 今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す | 事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む) |
|------------------------------|------|---|---|--------------------------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「遊化三昧」を理念に掲げ、利用者を地域の生活者として尊厳を大切に接している。重い認知症のある方でも社会性が取り戻せることが可能であるとの考えをもって、外部・内部の環境を整備し、理念を実践へ向け、努力している。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 「遊化三昧」の理念(利用者のあるがままを受容し、思うがままに過ぎて頂けることが自立支援である)を共有し、その実践へ向け取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | ホーム1階での「朝喫茶」は、(自治会副会長がマスター)地域の方との交流の場となっている。保育園児を迎えてのホーム屋上農園のイモ掘りや、トライやるウィークの受け入れ、保育所運動会、幼稚園七夕祭り、中学校文化祭への参加…等々、世代を隔てた交流も積極的に支援している。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 第三者評価の意義について、法人(株式会社神戸介護ケアウイング)の人材育成教育に盛り込み、全職員に周知している。評価結果は、定例会議やフロア会議において、検討し改善に向け取り組んでいる。新人研修時においても、第三者評価の意義について教育する予定。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 評価項目 | 評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容) | 今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す | 事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む) |
|------------------------|------|--|---|--------------------------|---|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では、ホームの現状報告、外出支援の報告、家族会からの報告のほか、今後のホームのイベントについて報告し、地域の方に参加してもらえるように意見を頂いている。地域の盆踊りや文化祭の情報を教えて頂いている。 | ○ | 家族の会向けの学習会(認知症ケア・介護保険制度・医療保険制度・生活機能訓練など)の実施について、会議で相談してほしい。 |
| 6 | 9 | ○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 介護保険説明会や連絡会議に積極的に参加し、情報収集や情報交換を行っている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | ホーム通信「日々是好日」を4ヵ月に1回発行し、外出支援の様子や職員異動を報告している。遠方にお住まいの家族には、手紙に写真も同封して、日々の暮らしぶりを報告している。 | ○ | ホーム主催の学習会について案内してはどうか。 |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 昨年、家族の会が発足したことで、家族の意見や要望を聴きやすくなった。家族からの意見については、家族会の代表者と相談しながら対応している。利用者それぞれの担当職員が中心となり、家族と信頼関係を築くことで気軽に意見や要望を表出してもらえるようにしている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 利用者ごとに担当職員を決めている。管理者、リーダー、スタッフのチームケアにより、異動による利用者へのダメージを防ぐだけでなく、職員の離職を抑えることができている。各フロアや併設のデイサービスと交流をすることで、異動時も馴染みの職員の支援を受けることができている。 | | |


| 外部評価 | 自己評価 | 評価項目 | 評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容) | 今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す | 事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む) |
|----------------------------------|------|--|---|--------------------------|---|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 経営指針書の人材育成マニュアルに基づき、OJTがなされている。行政主催研修や人材育成勉強会を随時開催し、特に口腔ケア実施研修には力を入れている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 事業所との相互見学会や他事業所職員の実践研修を受け入れ、交流を通じて知識や技術の向上を目指している。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 安心して入居してもらえるよう、入居までに自宅を訪問し、本人や家族の要望を聞き、また、ホームを見学してもらい、他の利用者と交流する機会も持っている。ホームの雰囲気より感じてもらえるよう、長く滞在してもらえる体制づくりを検討している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている | 調理や野菜作り、買物、日課の犬の散歩を一緒にすることで、家事や楽しみごとの時間を共有し、日々の暮らしの中で支えあう関係が築けるように努めている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 評価項目 | 評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容) | 今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す | 事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む) |
|------------------------------------|------|--|---|--------------------------|---|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人や家族、入居前の担当ケアマネ、サービス提供者より、生活歴や好みの暮らし方について情報収集し、思いを把握できるように努めている。意思表示が困難な場合は、自宅を見せて頂いたり、家族と相談しながら利用者本位に検討している。 | | |
| 2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人や家族の意向を踏まえ、職員、医師の意見等の情報をもとにケアプラン会議を開き、意見を出し合い、十分に検討したうえで介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画は、家族に十分に説明し同意得ている。計画の見直しは、3か月～6か月に1回行ない、変化がある場合は、随時に行なっている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 入居後も「朝喫茶」の利用などにより、友人と交流できるよう支援している。併設のデイサービスを利用しながら、ホームの雰囲気を見てもらい、入居選択においても無理なくできるよう支援している。事業所内に歯科衛生士が常勤しており、適切な口腔指導を受けることができる。職員が、救急インストラクターの資格を有している。 | ○ | 救急インストラクターの資格のある職員が中心となって、家族や地域の方向けに緊急時対応の講習会を開催してはどうか。 |

| 外部評価 | 自己評価 | 評価項目 | 評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容) | 今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す | 事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む) |
|----------------------------------|------|--|---|--------------------------|---|
| 4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ホームのかかりつけ医師が、在宅医療支援診療所として「24時間安心」の医療を提供している。週1回の往診のほか、緊急時や急変時は指示を頂ける。併設するデイサービスの看護師からも、ケアの方法や指導を受けている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化が予想される場合は、出来るかぎり早い段階で、利用者、家族、職員で話し合い、医師の意見を踏まえ、今後のケア方針を決定している。看取りについては、家族の協力のもと実践している。重度化した場合や終末期のあり方については、指針の作成を検討している。 | ○ | 看取りのケアについても勉強会を開き、職員のスキルアップの機会を作ってほしい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 利用者への声掛けや対応については、経営指針書に理念として掲げ、全職員に徹底している。職員の守秘義務と利用者のプライバシーの保護については、全職員が誓約書を交わしている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | あるがまま思うがままに利用者が過ごせるように、職員は利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、その日の希望によって、セラピードックとのふれあいや外出、趣味(野菜づくり、将棋、マージャン・編み物)を楽しめるように支援している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 評価項目 | 評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容) | 今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す | 事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む) |
|-------------------------------|------|---|--|--------------------------|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | <input type="checkbox"/> 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食卓は、屋上で育てた新鮮な野菜が並び、ランチマットや季節の花で飾り、食器は(使い慣れた)個人のものを利用してもらうなど、食事を楽しめるよう支援している。利用者の持てる力が発揮できるよう、買い物から調理、後片付けまで協働で行っている。 | | |
| 23 | 57 | <input type="checkbox"/> 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 毎日の入浴を基本とし、利用者の健康状態を確認しながら、希望の時間帯に入浴してもらっている。日に2回入浴をする利用者もある。浴室には簡易な鍵を掛けるなどプライバシーに配慮している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | <input type="checkbox"/> 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | ボランティアの協力を得て、絵手紙やパンフラワーなど利用者の趣味を活かした支援や、掃除や洗濯、調理その他、生活歴を活かした役割を持てるように支援している。近隣のグループホーム「ケアウイング弓の木」の利用者との交流が深まり、これも楽しみごとになっている。 | | |
| 25 | 61 | <input type="checkbox"/> 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 屋上の菜園の野菜づくりや買物など、日々希望に合わせて外出できるように支援している。有馬温泉への一泊旅行、甲子園球場や阪神競馬への外出、石屋川公園でのお花見、地域行事(八幡幼稚園の七夕祭り、石屋川保育所の運動会、鷹匠中学校の文化祭)への参加…等々、外出の機会を多く提供している。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | <input type="checkbox"/> 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 運営者と全職員が、鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は原則としてフロアは施錠せず、1階から屋上まで希望に応じて移動できるようにしている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 評価項目 | 評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容) | 今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す | 事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む) |
|-----------------------------------|------|---|---|--------------------------|---|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 災害対応マニュアルを整え、年2回の消防避難訓練を実施している。災害時に協力して頂けるよう、自治会とのつながりを大切にするとともに、運営推進会議で地域ぐるみの災害対策について討議していく予定。 | ○ | 個人情報に配慮しながら、援護利用者リスト(救助に必要な利用者情報提供票)をまとめるなど、災害時の地域協力体制を築いていってほしい。 |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者一人ひとりの食習慣を大切に、個々に合わせた食事(食事の好み・食事量・嚥下状態に合わせた刻み食やとろみ食)を提供している。食事摂取量日々チェックし、状態変化の早期発見に努めている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関には季節に応じて利用者とともに花を活けている。リビングは、季節ごとの壁かけを飾り、音楽を流したりし、居心地の良い空間づくりをしている。リビングは「2階は洋風・3階は和風」とし、自由に行き来きしてもらい、リビングでテレビを見たり、おしゃべりしたり…と思いいに過ごしている。屋上にはベンチを置き、いつでも外の空気を感じて頂けるようにしている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者、家族、職員が協力し合って、居室に置く家具や物品は、利用者がこれまでの生活で使い慣れた物を自宅から持ち込み揃えることで、“在宅”に近い生活環境を作っている。居室は、利用者の好みにより、畳敷きにも変更できる。 | | |

※  は、重点項目。